

# 令和2年7月に発生した農作業死傷事故

〈7月に発生した農作業死傷事故:24件〉

農業機械作業に係る死傷事故:16件

うち 乗用型トラクター 6件  
動力刈払機 2件 ほか

その他の死傷事故:8件

うち 熱中症 2件  
水路・川への転落 2件 ほか

(今月のワンポイント)

○ 7月の農作業事故では「熱中症」が2件報告されており、このうち1件では尊い命が失われました。

○ 8月に入り、全国的に気温が急激に上昇しています。消防庁の発表では、8月10日～16日の1週間に農・畜・水産作業中に田畑等で発生した熱中症による救急搬送者は全国で198名(速報値)に上っています。

○ 作業前に以下のホームページから最寄りの地点の暑さ指数を確認し、30℃以上となることが予想される場合は、草刈りなど負荷の大きい作業はできるだけ避けて下さい。

○ また、二人以上で作業を行うか、どうしても一人で終わるを得ない場合は、携帯電話などで異常がないか小まめに確認し合うようにしましょう。

【参考URL】

・農作業中の熱中症対策について(令和2年5月1日付け通知文)

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s\\_kikaika/anzen/attach/pdf/index-99.pdf](http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/attach/pdf/index-99.pdf)

・環境省 熱中症予防情報サイト「暑さ指数(WBGT)の実況と予測」

[https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt\\_data.php](https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php)

**夏の農作業で心がけること** 

- 1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう**  
※ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう
- 2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう**  
※ のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう  
※ 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水(1Lの水に1～2gの食塩)、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう  
※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。  
※ 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう 
- 3. 熱中症予防グッズを活用しましょう**  
※ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう
- 4. 単独作業を避けましょう**  
※ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声をかけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう
- 5. 高温多湿の環境を避けましょう**  
※ 暑さ指数(WBGT)計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。  
※ 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう  
※ 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう